

第 90 回 神戸市上下水道事業審議会（平成 29 年 12 月 18 日）議事記録

- 議事(1) 平成 28 年度 神戸市水道事業会計決算の概要について
- 議事(2) 平成 29 年度 神戸市下水道事業会計決算の概要について
- 議事(3) その他

【議事(1)】

(委員)

経年管の更新について、これまで年間 20 km 取り替えていたものをペースアップしていかなければならないと聞いたが、資料中の財政計画に盛り込まれているのか。

さらに、今後、物価の上昇が予測されており、もし加味されていないのであればかなり厳しい状況になるのではないか。

(水道局)

神戸水道ビジョン 2025 及び中期経営計画 2019 において、平成 27 年度に年間約 20 km 更新していたものを、毎年 5 km ずつ、4 年間で 40 km までペースアップしていこうと考えており、投資計画に盛り込んでいる。収益的収支において資産の償却にあわせて減価償却費が少しずつ増加しているのは、その影響である。

(委員)

最終的に更新が必要な管路延長は全体で何kmあるのか。年間 20 km や 25 km というペースで対処できるのか。

(水道局)

管路の延長は全部で約 4,800km であり、経年化が進んでいる。ペースアップする一方で、配水管の寿命をどうみるのかということもある。年間 40 km 更新すれば、単純計算で 120 年かかるが、個々の管路の傷み具合や緊急度などを考慮し優先順位をつけながら、利用者の方々に極力ご迷惑をおかけしない形で更新を進めていきたい。当面年間 40km の更新を目指しているが、老朽度をみてさらにペースアップしなければいけないのか議論させて頂きたいと考えている。

物価上昇については、計画策定時に、CPI などを考慮したが、どちらかといえば当時はデフレ傾向が続いていたので、決算数値の横引きに近い形でみている。もし、物価上昇によって収支に影響が出るようなことになれば、収益的支出の中の維持管理費を中心に影響が生じるものと考えている。

(委員)

この予算・計画で大丈夫ということかを確認したい。

(水道局)

毎年、決算数値や政府が発表するCPIなどを踏まえて予算編成している。給水収益が少し横ばいとなっており、長期前受金戻入の影響を除いた単年度収支は何とか均衡できている。

(委員)

もし、万が一単年度収支が確保できない場合、どのような見直しをするのか。私たち審議員は提出された資料をベースにしか返答できない。見通しが変わればまた審議会を開くのか。

(水道局)

10年間の長期収支の見通しに基づいて4年ごとにアクションプランを策定している。その前提条件が、例えばリーマンショックや東日本大震災のように大きく経済情勢が変わった場合は見直す必要があると思う。今のところ給水収益の減少にブレーキがかかっており、維持管理費あるいは受水費など削減しながら何とか収支均衡を確保している。水道事業における財源は限られており、状況が変われば方策を考えていかなければならない。

(委員)

貯水機能のある災害時給水拠点の再整備について、一番心配している。例えば、公園や学校などに緊急時の貯水施設があるが、整備状況はどのようになっているのか。私たちの近所でどこにあるのか知りたい。南海トラフ地震もあり、もっと市民に知らせる必要がある。

(水道局)

貯水機能のある災害時臨時給水拠点については市内に62か所あり、水を貯めているので災害時でも水を得ることができる。昭和61年から整備を進めており、阪神・淡路大震災時には21箇所完成していた。当時は柵に囲まれている配水池の中にあり、被災時には柵を壊して入っていたということもあり、別の入口を設けて、地元の防災コミュニティの方々に直接鍵をお渡しして、災害時には配水池に直接入って給水活動が行えるよう再整備を進めている。この給水拠点については、本日お手元にお配りしている広報紙KOBEの11月号折込紙に記載しているシンボルマークを道路より見やすい位置に表示するとともに、QRコードを取り込むことで水道局ホームページにて市内のどの位置にこの給水拠点があるか地図で明示しているページにリンクしている。また、お近くの水道局センターに行っただけであれば、区ごとの地図をお渡しすることができるのでご活用いただきたい。

(委員)

28年度決算の経営収支について、特別利益を約10億円計上しているが、前年度と比較してこれが無ければ赤字となっていたとみるべきなのか、例年との比較においてどう認識すればよいのか。

(水道局)

特別利益については、宝塚市の阪神水道企業団加入に伴う加入負担金返還の皆増や、遊休

地など固定資産の売却等によるもので、いずれも委員ご指摘のとおり臨時的な収入だ。

当年度損益 43 億 8,000 万円から特別利益約 10 億円を差し引くと約 33 億 8,000 万となり、さらに長期前受金戻入が 31 億 8,000 万であることから、この要素を除いた収支決算をみると、何とか 1 億、2 億の黒字であり、特別利益がなければほぼ収支が均衡している。

(委員)

有収水量がここ何年間か横ばいになっているということであるが、これはよい意味で下げ止まりになっているのか。例えば近隣都市においても同じ傾向なのか。

(水道局)

ここ数年は横ばいとなっているが、下げ止まっていると評価するのは難しい。過去 10 年間のトレンドは、水道事業の収益はなだらかに減少していくというよりは、何らかの事情が生じれば大きく減少し、その後しばらく横ばいが続くといった階段のような落ち方をしている。特に政令市など他都市と情報交換したところ、神戸市と同じく横ばいであるが、その理由についてこれといった決め手がないと聞いている。

長期のトレンドでみると人口が減少、給水戸数減ということで、減少傾向が続くのではないかと思うが、大きく減少することもあるので今後とも注視していきたい。

(参与)

世間ではコンビニ等で様々なミネラルウォーターが販売されている中で、ボトルドウォーターを広報の観点からも販売していくとのことだが、収益はどうか。

(水道局)

ボトルドウォーターを製造しているが、収益の柱というよりは水道水の PR として活用しており、収支はほぼ均衡している。平成 28 年度に復活させたものであり、以前は配送業者による販売であったため配送経費がかかり、1 本 100 円という単価では成り立たなかった。年間何千万本と製造する飲料メーカーと対抗して、収益事業とすることは難しい。布引溪流の水が神戸市の誇るべき水源であることや、水道水の安全、安心をお伝えしていくために作っている。今年度からは要望にお応えして、水の科学博物館や三宮のインフォメーションセンターにおいて有料配布もおこなっている。

(参与)

先日も神戸マラソンが開催されたが、神戸市にはさまざまなイベントがある。販路を拡大するには様々な経費がかかるが、様々な部局と連携、協力して、できるだけうまく神戸の水を PR してほしい。

(参与)

28 年度から導入された「こうべアクアサポーター」制度について、67 人の方がイベントの企画、推進や広報において活躍されたということだが、その成果やどのような効果があった

のか。

(水道局)

本日お配りしている広報紙 KOBE の折込紙をはじめ、経営情報、料金制度の冊子の作成にあたり、表現方法など直接アドバイスをいただいた。また、イベントの開催にあたっては運営スタッフとしてご協力いただいた。

第 1 期の方については 2 年間という任期を満了された 67 名のうち 44 名の方が引き続き何らかの形で協力したいというお声をいただき、別途「アクアパートナー」という制度を設け、引き続きご協力いただくこととなった。

先日委嘱させていただいた第 2 期の方々についても、意欲的な方が多く、第 1 期の方々に続いてアクアパートナーになっていただけるとありがたい。

このように水道、下水道ともにさまざまなご協力を得ている。

(参与)

協力の輪が広がっていくということはよいことだ。広報紙 KOBE の折込紙については漫画調ですごく分かりやすく、目に入りやすい。これはサポーターのアイデアが凝縮されているのかもしれないが、すごくよいと思う。個人的な意見になるが、もう少し目立つ色も使ってはどうか。

(委員)

11 月 2 日に JR 舞子駅に隣接している Tio 舞子という商業施設において赤水が発生した。同施設において私自身、店舗を営業しているが、飲食店 4 軒のうち 2 軒において赤水が出た。管理事務所を通じて水道局に連絡し、応急給水の対応を行っていただいた。赤水が出た 2 軒についてはその水で調理等をおこなったが、応急給水の水はいつまで使えるものなのか。また、赤水の対処方法として煮沸することや、何か薬品を加えれば安全が確認できるようなものはないのか。

(水道局)

赤水の発生について大変ご迷惑をおかけした。配水区域を切り替える夜間作業をおこなったのだが、古い水道管の中には錆が付着しており、水が通常流れる方向と反対の方向に流れることや、流速が急に速くなった時に、管内の錆が流れることで赤水が生じる。赤水が発生する恐れがある場合は、影響範囲の利用者に対して事前にお知らせのチラシを配布した上で、夜間に赤水を処理することを基本に作業を行っている。しかしその日は、朝までに赤水の処理が間に合わず、ポリタンクなどで応急給水の対応を実施した。応急給水の水も水道水であり、消毒のため塩素を入れていることから、気温や直射日光など保管状況にもよるが、3 日位で使い切っていたいただきたい。

(水道局)

赤水は水道管の中の錆が剥がれて流れ出ているという状況なので、煮沸によって解消でき

るものではない。試液において確認ということについては、原因が錆であることから、我々水道局の職員でも色度を目視して判断するしかない。

【議事(2)】

(委員)

3ページの「(2) 業務量の推移」について、処理水量の推移は、雨水の影響がなければ、本来であれば、有収水量の推移と同じようなトレンドになると思うが、このような増減の変化をしているのは雨水の影響という理解でよいか。

(建設局)

委員ご指摘のとおり、処理水量の中には、雨水が入っているほか地下水も影響している。

(参与)

下水道使用料の見直しを考えているとのことだが、実際どのように考えているのか。

(建設局)

3ページのグラフのとおり、有収水量は年々減少傾向にある。また、老朽化した管渠の改築事業は、平成28年度より、従前の年間25kmから45kmにペースアップして整備しており、将来的には65kmまでペースアップを図らないといけない。

事業費と収入の見合いを考えた場合、使用料の改定を考えていかなければならず、現在、上下水道事業審議会の中に専門部会を設け、議論をさせていただいている。

(委員)

管きよの更新は、すべて管更生工法で行っているのか。

(建設局)

過去に神戸市内全域に調査を行っており、委員ご指摘のとおり、老朽化がひどいところは掘り返して入れ替えることを考えているが、現在のところ、大部分は管更生工法で対応していけると判断している。

(参与)

確認のために質問させてもらいたい。今秋の市長選の日の台風の際、午後6時～7時頃、国道2号線を通過しないように誘導された。自然災害があっても大丈夫のように、中突堤ポンプ場や小野浜ポンプ場を整備してきたと認識している。あの規模の台風であったため、念のためだとは思いますが、国道2号線がすべて封鎖され、山手の方に誘導された。実際に国道2号線が冠水した話は聞いていないので、大丈夫だったのだろうと思うが、容量オーバーしそうなので、警察に通らないように誘導を依頼したのかどうかについて伺いたい。

(建設局)

雨水ポンプ場は、10年に1回程度生じるような雨に対応するように整備を行ってきた。万が一、それ以上の雨が降れば、どうしても飲み込めないため、直近の道路側溝から溢れる事態も考えられると思うが、先般の雨については、ポンプ場の運転記録を見ても、余裕があったため、能力は負けていなかったと考えている。

また、道路管理者との連携についてであるが、局の中には防災部があり、災害時は情報連携をしており、その中で必要との判断があれば、別途、警察・道路管理者・交通管理者に通知することになる。

(参与)

連携をとっていただいているということであるが、非常時の際には十分な連携をとっていただくようお願いしたい。

(委員)

6ページの「資源・エネルギーの有効活用」について、消化ガス有効利用率が、28年度末で昨年度比にして8%上昇し、78%とのことであるが、100%には中々ならないだろうが、この数字を算出した根拠はあるのか。

(建設局)

消化ガスの有効利用率については、下水処理の過程で必ず消化ガスが発生し、その総量を分母として、各処理場で有効利用している量の合計を分子においた割合である。28年度末に昨年度比にして8%増えているのは、西部処理場で消化ガス発電を開始したためである。

(委員)

できるだけ有効的に活用できればと考えている。このような状況になってくれば、下水処理場が電気を発電する産地となれる余地もあり、市民にも電気の地産地消の観点から、下水処理場を見てもらう方向性もあっていいと思う。また、我々の中でも、組合員は電気の地産地消に大変関心が高いので、引き続き、有効利用に努めていただきたい。